

栽培センターの位置



大島は、東京から南へ約120kmの太平洋に浮かぶ伊豆諸島の中で最も大きい島で、一番北に位置します。近くを黒潮が流れるため、海水温は冬でも15度ぐらいはあります。

東京都栽培漁業センターは、大島の北西部に位置し、定期船の着く元町港から北へ海岸線に沿って約2kmの和泉浜にあります。大島空港にも近く、前面には海を隔てて、伊豆半島や富士山を望む風光明媚な場所です。

アクセス

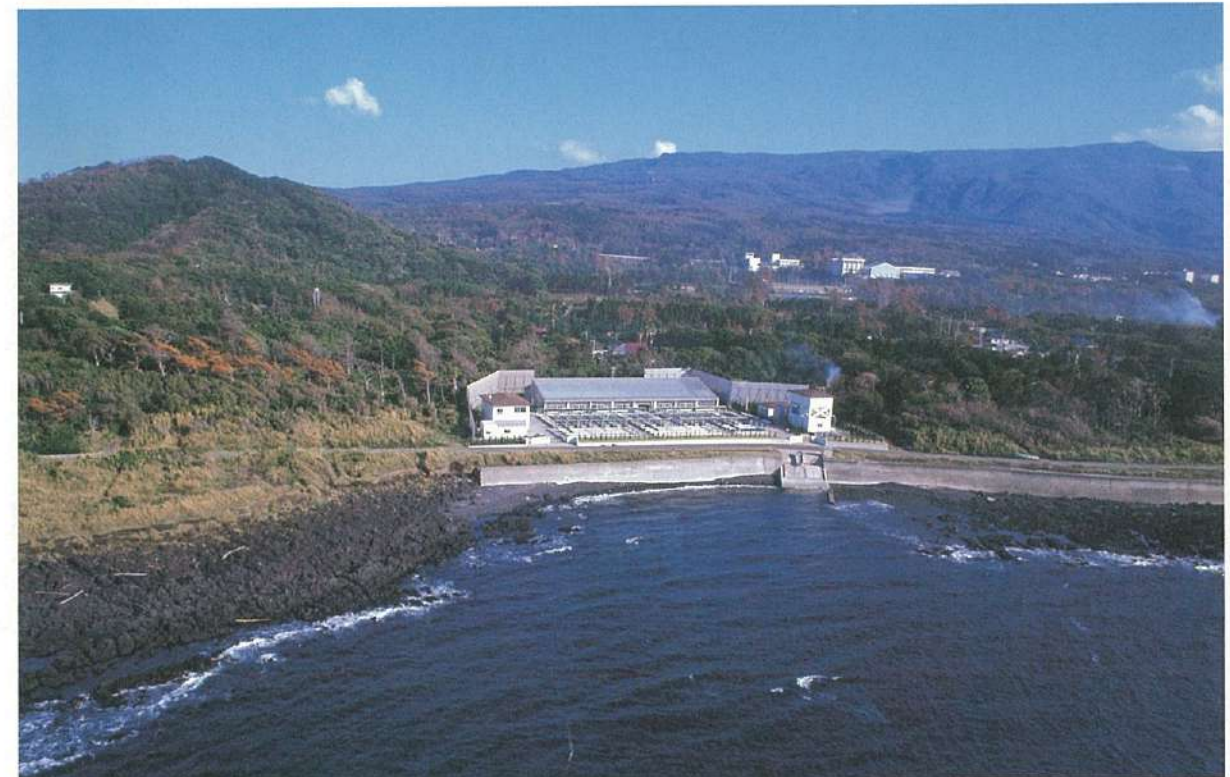
汽船：東京—大島 1時間45分
 熱海—大島 1時間
 飛行機：東京（羽田）—大島 40分
 東京（調布）—大島 35分

施設の概要

名称	構造・規模	施設内容
管理棟	RC2階建332.0㎡	1F: 研修室、図書資料室、作業準備室等 2F: 事務室、所長室、休憩室等
飼育棟	鉄骨FRA造1636.5㎡	1F: 親貝飼育室(207.0㎡)/FRP水槽8面 採卵室(28.98㎡)、幼生管理室(40.02㎡) 種餌料保存室(40.80㎡)、餌料粗培養室(40.80㎡) 採苗餌料培養室(771.2㎡)/10m巡流水槽8基 栄養塩補給室(7.03㎡)/定量ポンプ1台 実験室(46.92㎡)、精密機械室(21.08㎡) 倉庫(68.00㎡)、餌料倉庫(37.00㎡) 機械室(69.00㎡)、冷蔵庫(22.4㎡) 2F: 倉庫(206.50㎡)
屋外施設	コンクリート約3500㎡	20m型巡流水槽25基 10m型巡流水槽5基、5mFRP水槽11基
機械棟	RC3階建 159.0㎡	B1: 機械室(79.8㎡)/取水ポンプ22KW4台 逆洗ポンプ22KW1台、ブローア—3.7KW3台 真空ポンプ1台、排水ポンプ0.4KW2台 1F: 発電機室、変電室 2F: 吹き抜け 3F: 高架水槽(79.8㎡)
ろ過装置	圧力式急速ろ過機 処理水量225t/h 4台	
海水取水管	ボックスカルバート1400×1200mm(内寸)全長162m(海中部分117m)1条	
着水槽	鉄筋コンクリート 61.60㎡	
排水沈殿池	鉄筋コンクリート 41.25㎡	

公益財団法人 東京都農林水産振興財団

東京都栽培漁業センター



〒100-0101 東京都大島町元町字和泉99-5

TEL. 04992-2-3461

FAX. 04992-2-4492

ホームページ

<http://www.tokyo-aff.or.jp/>

栽培漁業センターの概要

■設置の目的

栽培漁業センターは栽培漁業の中核基地として、大量の種苗を安定的に供給することを目的に設置されました。伊豆諸島における磯根資源の維持増大をはかることにより、地域の基幹産業である漁業を支援し、都民に新鮮な海の幸を安定的に供給することができます。

■運営方法

(公財)東京都農林水産振興財団が東京都から栽培漁業センターの施設管理、種苗生産等に関する業務の委託を受け運営にあっています。

■業務内容

- ①アワビ・フクトコブシ・サザエの種苗生産および配付
- ②種苗生産に関する技術改良等の試験研究
- ③栽培漁業に関する啓発・普及

栽培漁業とは？

多くの魚介類は一度にたくさんの卵を産みます。

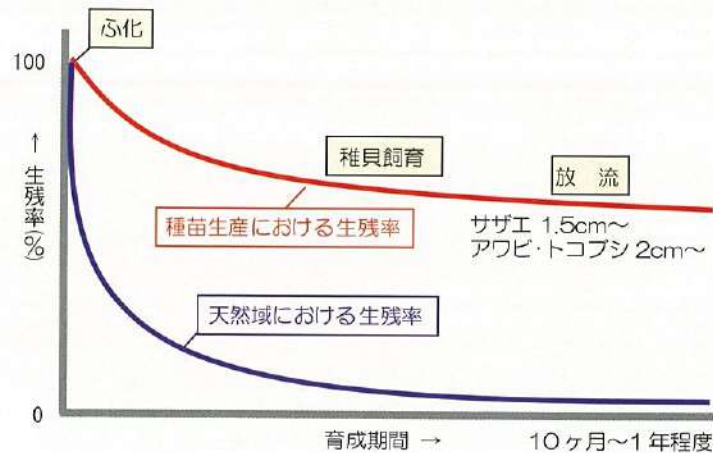
しかし卵や稚魚・稚貝は海の中で他の生き物に食べられてしまったり、生息環境に対応できないなどの理由でその多くが成魚・成貝となる前の段階で死んでしまいます。

そこで天然の海で減耗が多い初期の時代を人間の手で育てた後、海へ放流し生息域の保護と管理をしながら育ったものを漁獲するという考えが生まれました。

— この一連の流れが**栽培漁業**です。

種 類	一回あたりの産卵量		
	フクトコブシ	アワビ	サザエ
産卵数(個)	80万~100万	300万~500万	20万~30万

《ふ化後の経過日数と生残率の関係》

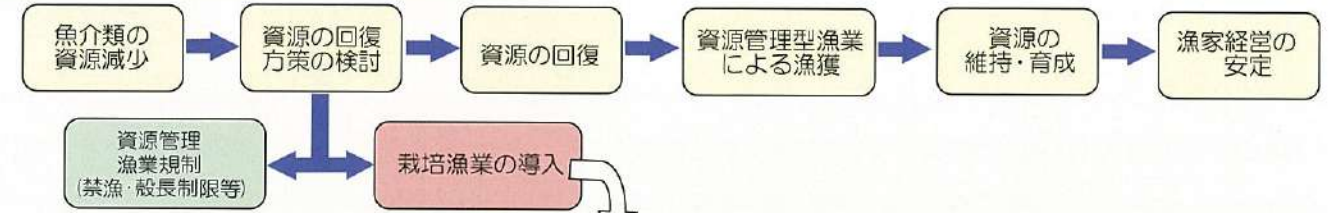


放流貝の見わけかた



貝殻の色は成長の過程で食べた餌によって変化します。人工飼育中は配合飼料や藻類の種類による影響で、フクトコブシとアワビは緑色、サザエは白くなります。この特徴は一生消えることがないので、殻頂部分の色で放流貝であることがわかります。

栽培漁業の流れ

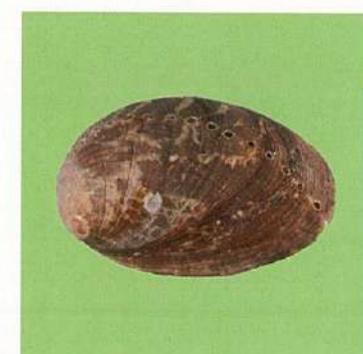


種苗生産対象種



サザエ

大島~神津島までの海域に年間約50~80万個の稚貝を放流しています。



フクトコブシ

大島~八丈島までの伊豆諸島全域に年間約100万個の稚貝を放流しています。



大島~神津島までの海域にクロアワビとメガイアワビを合わせて15~20万個の稚貝を放流しています。

クロアワビ

メガイアワビ

